

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に関する面談
2. 日時：令和4年3月9日(水) 13時05分～15時00分
3. 場所：原子力規制庁18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
澁谷企画調査官、岩永企画調査官、高松専門職、久川係員
高木技術参与(テレビ会議システムによる出席)
福島第一規制事務所
黒川原子力運転検査官、木村原子力運転検査官(テレビ会議システムによる出席)
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当1名(テレビ会議システムによる出席)
廃炉安全・品質室 担当2名(テレビ会議システムによる出席)
福島第一原子力発電所 担当2名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業について、資料に基づき、以下の説明があった。
 - 高線量 HIC1 基目(HIC3 基目)移替え作業時の被ばく線量
 - 高線量 HIC1 基目移替え作業時のダスト濃度
 - ✓ 全ての作業においてダスト濃度は高警報値未満であったが、作業エリアダスト濃度については、「①SEDS 取付け時(移送元 HIC)」、「②スラリー移送時」において、検出限界値以上のダスト濃度が検出され、代替フィルタ出口ダスト濃度については、「③スラリー移送準備時」、「④SEDS 取外し時(移送先 HIC)」において、検出限界値以上のダスト濃度が検出された。
 - ✓ なお、③の原因については、①におけるダスト濃度を測定した連続ダストモニタを転用していたことや、代替フィルタ前後の線量当量率に有意な損傷が確認されなかったことから、①の検出の際に捕捉したダストがろ紙上に残った状態のまま再起動を行ったことで、ろ紙上に残ったダストを検知したと推定している。
 - 高線量 HIC1 基目移替え作業時の環境線量
 - 高線量 HIC1 基目移替え作業時のスラリーの状況
 - ✓ 移送配管内へ呼び水を移送した後、底部抜出配管から移送を開始したが、スラリーでなく上澄み水が移送されていることを確認したため、中部抜出配管からの移送に切替えた。
 - ✓ 中部抜出配管からのスラリー移送は問題なく完了したものの、再び底部抜出配管からの移送を行ったところ、少量のスラリーを移送したのちにポンプが停止したため、作業を終了した。
 - ✓ そのため、移送できずに移替え元 HIC に残ったスラリーの量は、底部抜出配管から中部抜出配管の間と推定している。
 - 今後の予定
- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、以下のコメントを行った。
 - 低線量 HIC1 基目及び2基目の移替え作業結果とは異なり、HIC 内がたとえ湿

潤環境であったとしても、有意なダスト濃度の上昇が見られたことから、今回発生したダストの性状や特性については、十分に評価・考察するとともに、必要な対策の検討を行うこと。

- ①の作業時におけるダスト濃度上昇について、SEDS の取り付けを行う際に、想定していた作業時間を大幅に上回る時間を要してしまったことを原因として挙げているが、放射性物質を非密閉空間内で取扱うにあたっては、可能な限り滞在時間を減らす必要があると考えるため、改めて本作業を行うにあたっては適切な作業員を配置する等、十分な被ばく対策を検討すること。
- 今回、有意なダスト濃度上昇が見られたことや、約 30cm 程度抜き出せずにスラリーが残ってしまったことから、今後の作業方針については一度原子力規制庁内で整理した上で、対応していくこととしたい。

6. 資料

- HIC スラリー移替えの進捗状況